民話 ゆうわ座

耳の不自由な方のための
手話通訳 要約筆記 つき

- 話に遊び 輪を結び 座に集う -

第八回 あの日から10年が経って ～災害について考える～

千年に一度とも言われた震災に遭遇し、その体験や土地の語りを綴り、残してきた方がいます。また、日本の民話の中には災害を直接語ったものは実は少なく、しかし語りの断片はたくさん残っています。このことの意味を、みなさんとともに考えてみたいと思います。

2022年1月16日［日］ 13:00-16:00

せんだいメディアテーク・1階オープンスクエア

◎参加無料・要事前申し込み（裏面参照）

※要約筆記とは、話されている内容（音声）を、その場で要点をまとめ、文字にして伝える通訳です。パソコンのキーボードで入力した文字をスクリーンに投影します。

考えるテーブル

「民話 ゆうわ座」は、誰もが知っている日本の民話を題材に、みなさんの思いや考えを自由に語り合う場です。「みやぎ民話の会」が 1975 年頃から記録してきた、民話語りの映像や音声を見たり聞いたりします。先祖の声に耳をすませ、民話世界に遊び、心ひかれることを語り合ってみませんか。

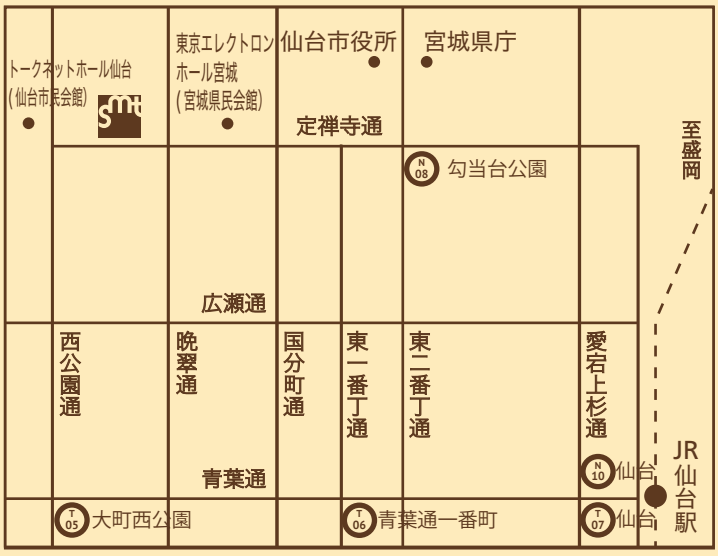
◆申込方法
メール又は FAX で受付。①催し名（ゆうわ座）②氏名 ③電話番号④参加人数をご記入ください。
申込先／せんだいメディアテーク
メール　office@smt.city.sendai.jp
FAX　022-713-4482
担当者からメールまたは電話での折り返しで予約完了。

◆申込受付開始
2021 年 12 月 9 日（木）※定員 70 名。定員に達し次第終了。

◆主催
みやぎ民話の会「民話　声の図書室」プロジェクトチーム
せんだいメディアテーク

◆助成　一般財団法人地域創造

せんだいメディアテーク
仙台市青葉区春日町 2-1
TEL 022-713-4483
https://www.smt.jp/



この用紙はリサイクルできます

第八回

あの日から10年が経って
～災害について考える～

これまで「民話　ゆうわ座」では、語り継がれてきた民話の数々を、現在を生きる私たちがよりよく生きるための杖として、様々な視点からみなさんと一緒に捉え直そうと試みてきました。今回は、震災によって大きな被害を被りながらも、周囲の語りを綴り、記録として残してきた事例のご紹介と、災害が民話の中でどの様にして語られてきたのかをご紹介しながら、みなさんとその意味について一緒に考えたいと思います。

民話 ゆうわ座の流れ

「民話 ゆうわ座」について　〈全体司会〉小田嶋利江

第一部　私たちが記録してきたこと〈進行〉小野和子

「双葉町を襲った放射能からのがれて」
（福島県双葉郡双葉町）目黒とみ子さん（みやぎ民話の会会員）

「閖上　津波に消えた町のむかしの暮らし」
（宮城県名取市閖上）早坂泰子さん（みやぎ民話の会会員）

「小さな町を呑み込んだ巨大津波」
（宮城県亘理郡山元町）庄司アイさん（みやぎ民話の会会員・やまもと民話の会代表）

みなさんと感想や意見の交換　その一

〈　休　憩　〉

第二部　祖先はどのように災害を語ってきたか　〈進行〉小田嶋利江

（地震）「井戸に落ちた地震」島津信子
「福島のマンゼロク」倉林惠子
（津波）「白大丸（しろだいまる）・黒大丸（くろだいまる）」倉林惠子
「三陸の大津波」山田裕子
（飢饉（ききん））「おはつとわらし」「騒がしいしし頭（かつしゃ）」加藤惠子
「膳の湯」寺嶋大輔
（疫病）「どすになった娘と猫」寺嶋大輔
（水害）「かわづら土手の人柱」「大工と鬼六」小田嶋利江
（旱魃（かんばつ））「天から落ちた雷小僧」小田嶋利江
（語りは「民話　声の図書室」プロジェクトチームメンバーによる）

みなさんと感想や意見の交換　その二

※「民話 声の図書室」とは…

「みやぎ民話の会」が 1975 年頃から記録してきた、宮城県を中心とする民話語りの映像・音声を、せんだいメディアテークと協働し、だれもが活かせる共有財産として、未来へ受け渡していこうとする活動です。これまでに制作した「伝承の語り手」による民話語りの DVD や CD は、せんだいメディアテーク 2 f 映像・音響ライブラリーに配架されています。閲覧・貸出が可能です。また、震災前に聞いた「浜の民話」の紹介、民話について自由に考え語り合う「民話ゆうわ座」の企画運営などを行っています。